

令和元年度 学生教育改善会議 報告書

大阪大谷大学 FD 部会

I. はじめに

現在、日本の大学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント：大学の教育内容や方法等に関する研究・研修を組織的に行い、教育改善につなげていく活動のこと)が義務付けられており、大阪大谷大学においてもさまざまな FD 活動を実施しています。基本的には、①学生のみなさんによる授業評価アンケートの実施とその集計結果に対する分析・考察・改善計画の立案、②さまざまなテーマに関わる教員研修、③ビデオ撮影した授業の自己評価のほか、今年度より導入した④教員間の授業参観制度の4つを柱としています。これらの諸活動は隔年で FD 報告書としてまとめられています。

本学では、より効果的な FD 活動を実践していくために、平成 30 年度より教職員と学生が組織する「学生教育改善会議」を設け、この会議では、各学科・専攻から選出された代表学生（学生委員）にご協力をいただき、学生による FD 活動の検証のほか、日常的な授業や教育環境、カリキュラム等に関する意見交換を行います。令和元年度は、8名の学生のみなさんの出席のもと、8月27日(火)14:40より行い、活発な議論が行われました。

II. 会議の内容

学生委員からの意見	大学からの回答
①授業評価アンケートによる授業改善 <ul style="list-style-type: none">・ 授業評価アンケートの集計結果と教員による考察について、学内 LAN で公表されている内容を見ることがない。・ 教員による考察を見ると、自分たちが思っている以上に授業のことを考えている。・ 受講した授業が改善されても、それは自身が受けることがない。	<ul style="list-style-type: none">・ 授業評価アンケートの集計・考察の公表については、オリエンテーション等で学生に周知を図りたい。・ 授業評価アンケートの結果を当該学期中の授業にフィードバックすることは物理的に不可能だが、その後の授業改善に資するものなので、ご協力をいただきたい。
②FD 報告書における授業評価アンケートの分析について (1) 学科での授業の実態を反映しているか <ul style="list-style-type: none">・ FD 報告書の内容は、学科での授業の実態を反映している。授業外での学習（予習・復習）についてはその通りである。・ 静粛性は実際に自身が感じているよりも高い数値が出ているように感じた。	<ul style="list-style-type: none">・ 静粛性についてはその感じ方が人それぞれなので、違和感を持つ人もいると感じる。・ 授業評価アンケートについては、その趣旨をきっちり学生にも理解してもらえよう、教員からの伝達を行い、真面目に答え

学生委員からの意見	大学からの回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 静粛さが保たれているのはその通りと感じた。 ・ アンケートに真面目に答えていない学生が多いと感じる。 	<p>てもらえるようにしたい。</p>
<p>(2) FD 報告書に書かれている分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD 報告書のなかで、学生に自由記述を書いてほしいと書かれているが、多くの学生は書いていない。 ・ 学生の主体性を促し、授業への深い理解と満足度を高めることが必要という点には共感した。 ・ 毎回の課題を出すだけではいけないという点に共感できた。 ・ グループワークでの学びの有効性に関する記述はその通りであると感じた。 ・ FD 報告書のなかに専任教員と非常勤教員の差についての言及があるが、教員の差ではなく学生側の問題ではないだろうか。 ・ 静粛性については授業規模にもよるので、一概には言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由記述欄は数字で回答する設問以上に学生の生の声が反映されるものなので、積極的に記述してもらいたい。 ・ 準備学習やアクティブラーニングの促進のために、教員対象の FD 研修等により継続的に取り組んでいく。 ・ 専任教員と非常勤教員の区別なく授業改善に取り組んでいく必要があると考える。 ・ 静粛性については、授業規模（受講者数）によるところもあるので、適正な授業規模の実現に向けて取り組んでいきたい。
<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 否定的な回答に対してその内容を深く聞けたらいいのではないか。 ・ 授業外の学習が成績に反映されないため取り組む学生が少ないのではないか。 ・ 出席が少なくても単位が出る授業もあり、そのため出席率が低くなるのではないか。 ・ アンケートに真面目に回答しない、不満を持っているのに発信しない学生が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケートをより実質的なものとするために、調査方法や質問項目等については、今後も検討を重ねていく。
<p>③授業以外の学習について</p>	
<p>(1) どのような学習方法が効果的だったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で得た内容を、授業後に誰かに話したり教えることが効果的である。 ・ 授業内容と関連した資料を読んでまとめるという課題が、理解が深まって良かった。 ・ 次の授業で発表やグループワークを行う場合には、その準備を行いやすい。 ・ 教科書に目を通すだけでも予習になるし、ノートをまとめ直したり資料を読み直すだけでも復習にな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員側から授業の目的やキーワードなどを紹介することが学習につながることは教員に周知していきたい。 ・ 薬学部の場合、国家試験対策と大学としての講義のあり方の間にギャップがある。大学としての講義について、学生に説明することが望ましい。

学生委員からの意見	大学からの回答
<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者と会話して取り組める学習方法があれば効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識に対する学生の価値観に対して、長期的な視野で大学の授業によって知識や技術を身につけてもらいたいという大学側の姿勢との間にギャップがあることがわかった。授業の中で授業の目的についてより詳しい説明が必要である。
<p>(2) 教員からどのような指示や助言があれば準備学習に取り組めるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績に反映させるような準備学習（いい方法とは思わないが）に取り組めるのではないか。 次回の授業内容の予告や用語の紹介があると、自分で調べて授業に望むことができる。 教職志望の場合、教員採用試験に出る内容や、教員にとって必要になる課題であれば取り組みやすい。 レジュメに書いてあること以外に教員の知識も紹介されると良い。 	
<p>④授業中の学生の私語について</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門科目はともかく、共通教育科目では私語が多い。大人数の授業でも私語が多くなる。 私語は、他の学生の授業を受ける権利を奪うことになる。 授業の流れを止めてしまうことになるが、教員は私語に対して厳然と対処する必要がある。 授業に出席すれば単位が取れるような授業で私語が起こりやすいのではないか。 私語をしている学生は教室から出て行かせることが必要。また、それをオリエンテーション等で学生に周知すればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 私語については、学生からの意見を聞いて、教員側と学生側双方に以下のような対処の余地がある。 <ul style="list-style-type: none"> 教員側の問題として、私語をしている学生に対する学生には対処を怠らないこと、私語を生じさせないような授業内容に工夫する必要がある。 学生側の問題として、特に私語をしている学生には、多くの学生の権利侵害に対する強い自覚を求めたい。
<p>⑤学習活動に対するフィードバックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートや指導案に対する改善点を指摘してもらうことで、次回からの改善につなげられる。 期末の試験も返却されると、今後の学習につながるし、成績評価に対する疑義も生じにくい。 提出した課題に対して個別のコメントをつけて返却されたり、学生からの質問や意見をまとめた資料を配布されると、新たな発見や自身の考えの整理につながる。 コメントがあることが理想だが、最低限返却はしてもらいたい。 模擬授業などを行なった後、教員や学生からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価のみならず、学生に対して学習内容の定着や学習の動機付けなどのために、フィードバックはきわめて重要である。これについては、組織として取り組むことが必要であり、全教員に対してフィードバックの実施をこれまで以上に促していきたい。

学生委員からの意見	大学からの回答
<p>がなされれば、それを伝えてもらえると、教育実習にも役立てられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の評価(優～不可)だけでなく、少人数の授業では個別に、大人数授業では全体的に総括をしてもらえると、学生のやる気を引き出せられる。 ・実習のレポートについては個別にコメントや講評を記述したフィードバックを求めたい。 	
<p>⑥各学科のカリキュラム等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の専門科目の一部が共通教育科目として他学科に開放されているが、人数が多くなり、専門性も下がるのではないか。 ・教職基礎演習の説明会に、別のオリエンテーションが延長して出席できず、別日に設定された補講も予定が入っていたため結果的に出席できなかった。調整をお願いしたい。 ・4月の行事予定表にない教育実習のオリエンテーションが組まれたことがあったが、前もって予定を知らせてもらいたい。 ・教育学科幼児教育専攻の3回生の前期は実習が多いため他の授業の履修登録ができないが、実習がゴールデンウィークなどに設定され授業が受けられる場合であっても履修登録できないと言われたが、この措置は疑問である。 ・教育学科以外でも教職に関係する科目を1回生から履修できるようにすると、進路の決定もしやすくなる。 ・シラバスと授業の実態とが合っていない科目がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許状取得に必要な科目について、学科の専門性と直結している「教科に関する科目」は1回生時より開講している。一方、「教職に関する科目」は、①難易度、②教職への動機づけ、③教育実習に行く学年を考慮したうえで、2回生以上から受講できるようにしている。教員採用試験のための学習については、教職教育センターで授業や講座として開講しているものがあるので、センターを積極的に活用してもらいたい。 ・教職基礎演習の説明会について 2019年度については行事が集中する3月末～4月初旬のなかで3回開催した。履修登録締切日の関係からこれ以上の開催はできなかった点、理解していただきたい。 ・行事予定について 教職教育センターの行事については「センターハンドブック」「センター利用案内」において記載している。
<p>⑦成績評価に対する疑問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートを出してもフィードバックがない科目があった。成績評価の経緯を知るためにもフィードバックがほしい。 ・成績評価に関する疑義について、現状では非常勤講師に対してのみ教務課が窓口になっているが、全ての教員に対して窓口になってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックについては⑤で記した通りである。 ・専任教員担当科目の成績評価に対する疑義については、まずは当該教員に尋ねてもらいたい。それでも疑義が解消されない場合は、教務課で相談に応じる。
<p>⑧授業改善への取り組みについて</p>	

学生委員からの意見	大学からの回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生教育改善会議によって学生の意見を大学に届けることは良いことである。学生間の会議も必要である。 ・ アンケートの自由記述欄に教員から学生に対して書くように積極的に促すべきではないか。 ・ 学生にとって、単位をとるために授業を受けるという考え方は間違っている。授業中の課題や授業そのものが将来の自身にとってどう役立つかを考えることが重要であると感じた。 ・ アンケートの集計結果やその分析を大学内で公表している点をもっと周知するべきである。 ・ 将来に対して不安を感じるので、この大学に来て後悔することがないようにしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が中心となった会議の開催については実現が難しいが、当面は学生教育改善会議によって幅広い意見を聞いていきたい。 ・ アンケートの自由記述欄については、教員によりその促し方に差が出ないように周知を行いたい。 ・ 学習の深い動機付けが行えたことは、この会議を行うにあたって想定していなかった効果である。 ・ アンケートの結果等の公表については、①で記した通り、周知を図っていきたい。 ・ 学生が一人でも後悔することがないように大学側でも努力をするとともに、学生のみなさんのがんばりにも期待したい。

III. 総括

学生教育改善会議を開催して、今後とくに大学が取り組まなければならないことが以下の3つに集約されることがわかりました。

1. 授業評価アンケートの効果的な実施と活用について

授業評価アンケートの結果について、学生側の視点から納得できる部分と懐疑的に感じる部分があることがわかりました。より高い精度で調査が行え、学生のみなさんにも真剣に取り組んでもらえるよう、調査方法や質問項目については精査を行なっていくとともに、自由記述の促進も行なっていく必要性が感じられました。また、授業評価アンケートの結果をほとんどの学生が知らないという実態も明らかになりましたが、可能な限り学生のみなさんへは周知を図りたいと思います。

2. 学習の動機付けについて

学生が求める学習と大学が考えている教育観のギャップが多少なりともあるようです。それは、各授業科目の目的や活用について必ずしも学生のみなさんに伝わっていないことが要因のひとつとして考えられます。単に知識や技術を習得させることだけが教育ではなく、学習の動機付けが不可欠であることを再認識させられました。また、教学 IR 情報（学習行動調査等の各種調査の結果）から学生のみなさんからのニーズを把握して、上記のギャップを埋めるための努力を怠らないようにしなければなりません。

3. フィードバックの重要性について

昨年度の学生教育改善会議でも出てきた意見ですが、学生のみなさんがそれぞれの学習活動に対するフィードバックを求めているにも関わらず、必ずしも満足いくものではないことがわかりました。フィードバックは学生にとって自身の学習成果を確認するとともに、学習内容の理解の促進、その後の学習方法の改善、学習の動機付けなどにつながる重要なものと認識しています。大学内においてフィードバックの重要性についてあらためて教員間で共通認識を持ちたいと考えています。

最後に、当日の会議に参加され、活発な議論をしていただいた8名の学生のみなさまに、厚く御礼申し上げます。